

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定価：一部30円

2011年4月20日

第 335・336 合併号

悲しみと苦難を越えて

関係論にたつ福祉実践②

理事長 稲松義人

未曾有の大災害をもたらした東日本大震災。多くの尊い生命が奪われ、築きあげてきた生活の基盤が根こそぎ失われ、人々は、大きな悲しみと苦難に向き合うこととなった。冷静に現実を考えると、さらに見通しの立たない将来への不安が大きく人々の心に押し掛かる。

実際には被災地に立たない私たちには、直接被災された人たちと同じような実感をもつことはできないかもしれない。しかし、それでも被災した人たちの命を思い、生活を思い、その現実を知らされた多くの人たちが、それぞれ世界中から熱い思いを寄せている。

人々は、大きな悲しみや苦難に遭遇したとき、みんなで生きていこうという、それまで忘れてしまっていた大切なことを思い出す。私たちは、今まさにそれを体験しているように感じられる。命はバラバラではない。一人ひとりの命はみんなつながりあって生きていく。みんなで力を出し合って生きていかなければならない。いま私にできることは何だろうか。

しかしやがて、生活が少しずつ落ちてきて、多くの人が自分自身の幸

せを求めることを中心に生活するようになる。再び、私たちは次第にそのことを忘れてしまうのだろうか。

私たちの周りには、大震災以前からあるいはどんな時代にも、悲しみと苦難の中で生きている人たちがいる。

そこには、温かな家庭で育つことのできない子どもたちがおり、何らかのハンディがあつて社会の中で普通の暮らしがさせてもらえない人たちがおり、愛する者を失い体の健康も失い孤独を感じる高齢者がおり、仕事を失い生活の見通しを奪われた人たちがいる。

自分たちの住む地域社会に目を向けるとき、私たちの身近にも様々な悲しみと苦難があり、取り組みなければならぬ課題があることを知らされる。そして、そこに支援を必要とする人たちがいる。私たちの多くは、たぶんそのことを知っている。なのに、「みんなで生きていこう」としなかったのは何故なのだろう。いま私にできることは何だろうか、と考えなかったのは何故だろうか。

多くの人たちが少しでも安心して暮らせるように、社会保障や社会福祉の制度がつくられてきた。その制度に裏付けられて小羊学園も開園し、これまで事業展開してきた。だからそのための制度は尊重しなければならない。しかし、私たちの働きの原点は、悲しみと苦難を越えて生きようとする人たちの熱い思いである。「これらの小

さい者の一人が減びることがないように」という創立の心である。

障がいのある人たちも、小さい人数で安心して暮らせる場所をつくりたい。どんな障がいの重い人でも日中活動のために通う生活を目指したい。たとえば障がいのあつても同じ子どもとして地域の中で育ってほしい。等々。具体的な課題、取り組むべき事業を確認し、そのために良いシステムを作りたいと願っている。しかし、現実の制度の中でそれを求めようとすると、採算が合わないからできない。制度が整っていない部分は自分たちの役割でなると、言い訳してしまっていないだろうか。支援を必要とする人たちを前に、私自身が、そして、あなた自身がその現実に向き合っていくのかという問いを忘れてはいないだろうか。

この大きな災害のただ中であつて、報道のインタビューに答えて「ありがとうございます」と答えるお年寄りたち、肉親の安否が不明な中でも避難所の中で行動を起こす中高生たち、経済基盤をすべて失った中ですでに再建のために立ち上がろうとする企業家たち。この国の人たちの謙虚さ、優しさ、勇氣は何と素晴らしいことか。きっと再建される日は来るだろう。そのために私たちも力を合わせたい。そして、すべての人が、そして私自身も、関わりを求める福祉の心が、この国に根づくことを願って止まない。

小羊に新しい風が吹きます！

新年度に入り、今年も新職員が小羊学園の仲間として加わりました。今回は、各採用事業所から1名の方に、自己紹介をしていただきます。新しい風を巻き起こしてくれるであろうニューフェイスをよろしく！

紹介項目

- ① 氏名 ② 年齢 ③ 卒業学校
- ④ 配属先 ⑤ 配属職種
- ⑥ 趣味・特技・誰にも負けないこと
- ⑦ 長所・短所
- ⑧ この仕事を選んだ理由、これからどんな福祉人になりたいか

① 森下 恵理（もりした えり）

- ② 24歳（6月9日で25歳になります）
- ③ 聖隷クリストファー大学
- ④ 三方原スクエア 成人部
- ⑤ 生活支援員
- ⑥ 動物が大好きです。時間があるときは愛犬とお出かけします。旅行も好きです。3月の初旬に下呂温泉に行ってきました。
- ⑦ マイペースな性格なため時には長所、時には短所になるかと思います。
- ⑧ わたしがこの仕事を選んだ理由は「人と関わることが好き」だからです。小羊学園においては子どもから大人までとても多くの方々と関



わることができると考え希望しました。関わる中での新しい出会いや、新しい発見を今から楽しみにしています。

今は精一杯目の前にある課題と向き合っていきたいと思いますが、今後はスクエアで生活している方、日中活動を通して関わる方だけでなく障がいを持ちながら地域で生活している方々とも関わっていきたくさんのことを経験して地域を

支える福祉人になりたいです。迷惑おかけすることも多くあると思いますがよろしく願います。

① 大石 亜依（おおishi あい）

- ② 22歳
- ③ 東京福祉大学
- ④ 支援センターわかぎ
- ⑤ 生活支援員
- ⑥ 映画鑑賞
- ⑦ 長所は洗濯するのが好きなことです。短所は要領が悪いことです。
- ⑧ 私がこの仕事を選んだ理由は、高校生の時に、特別支援学校の交流会で音楽の授業に参加しました。感受性豊かに音楽を表現する生徒の皆さんを見て、生命力の強さを感じました。また、大学の授業で

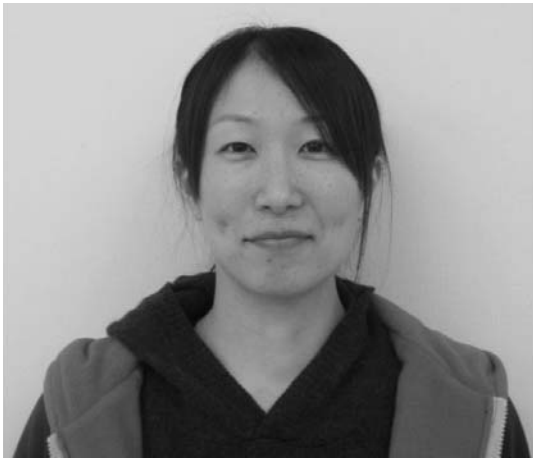


糸賀一雄さんのビデオを見て、「このこらに世の光を当てるのではないくて、このこらを世の光にしないといかんのですよ。」と熱く語る糸賀さんの姿が心に残りました。自分も知的障害者と関わり、何かできることをやり遂げたいと思いました。

私は、利用者主体の支援をする生活支援員になりたいです。とは言っても、限られた時間と空間、制度、集団生活の中でお一人おひとりと向き合うためには、一日の流れ、自分の役割、決まり事を覚えてからでなくては、とても利用者と同じ合う段階まで進めません。今はまだ程遠い目標ですが、日々試行錯誤を繰り返し一步一步進みたいのです。また、利用者さんの世界にこちらから歩み寄る努力もしたいです。

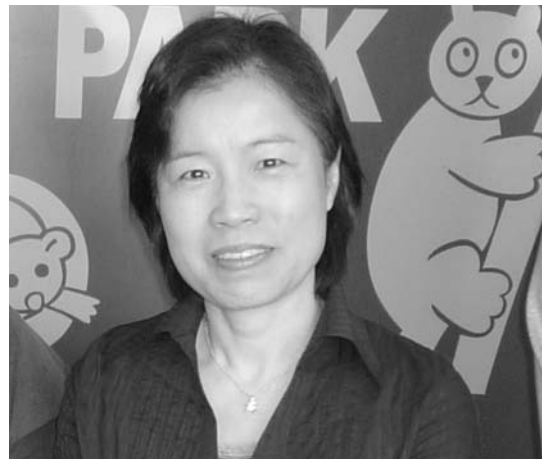
① 川合 里枝（かわい りえ）

- ② 22歳
- ③ 愛知東邦大学
- ④ 在宅支援センターぱびるす
- ⑤ 保育士
- ⑥ 旅行とおいしいものを食べること・球技・ユーモア
- ⑦ 天真爛漫・マイペース
- ⑧ 私は、大学に入学後、障がいのある子ども達と関わるボランティア



活動に参加しました。そこでは、勉強や遊びを通して関わる中で、子ども達一人ひとりのことを理解し、得意なことを見つけ、活かし、苦手なことはどのように支援すべきか考え、試行錯誤の毎日でした。そんな時でも子ども達が見せてくれる、キラキラした笑顔や少しずつ成長・発達する姿を見ることが出来たことはとても嬉しいことでした。この気持ち忘れられず、障がいのある人達の援助者になりたいと思います。この仕事を選びました。これからは、障がいのある人みんなが、もっともっと笑顔で過ごすことができる社会になるよう、支援や配慮を行っていきけるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

① 石上 史江(いしがみ ふみえ)



- ② 50代
- ③ 静岡県立総合病院(前職)
- ④ つばさ静岡 つくし
- ⑤ 看護師
- ⑥ スキー・映画鑑賞・寝ること
- ⑦ 長所・誰とでも分け隔てなく接することができる・素直、短所・話かけられても気づかないことがある(自分が何かに集中している時)・情にもろい
- ⑧ この仕事を選んだ理由・心身障害者の看護を学びたかった。チームワークを大事にして、アットホームな生活環境のなかで利用者さん及び家族を温かく見守っていききたい。



辞令交付式



4月1日、つばさ静岡にて平成23年度採用小羊学園辞令交付式が行われ19名の新規採用職員および22年度中途採用者が参加し 辞令が手渡されました。式典では、礼拝の中で聖書から「迷い出た羊のたとえ」が読まれ、稲松理事長が創立の心について話しました。また、支援センターわかぎ、つばさ静岡など施設名が聖書から引用された施設の名称に託されている思いが離れました。話の中で、東日本震災を憂い誰もが助け合いの心・思いやりの心を思い出し、被災者支援への思いで日

本がひとつになっている。しかし、支援を必要とする人たちは身近なところにいる。その人たちに心をこめて必要な支援を届けることが日常の私たちの仕事であると語りかけました。
式典後に浜松地区職員はつばさ静岡の見学を行い、その後の昼食で互いの交流を深め、各事業所で就職オリエンテーションを実施しました。

※紙面では紹介できなかった新職員の配属先と氏名・職種を紹介します。

■ 三方原スクエア児童部

○生活支援員 松井 美仁

■ 三方原スクエア成人部

○生活支援員 鈴木 範保
○生活支援員 高林 重誓

■ 支援センターわかぎ

○生活支援員 竹田 知弘
○生活支援員 小泉 真己
○生活支援員 岡部 さとみ
○栄養士 神村 真由美

■ つばさ静岡

○看護師 山崎 千晴
○看護師 渡邊 真理絵
○看護師 天石 尚美
○作業療法士 池谷 望
○生活支援員 上坂 飛乃
○生活支援員 木村 由佳
○生活支援員 野中 麻衣
○生活支援員 土橋 孝倫
○生活支援員 大久保 高将

初めての卒園式

【ぱびるす】

3月26日(土)に在宅支援センターぱびるすが初めての卒園式を行ないました。就学前のデイサービス事業はぱびるすが初めての取り組みで、法人としても子どもたちを送り出す記念すべき日となりました。

今回卒園されたお子さんは4名。卒園式にはご家族も出席され、わが子の門出とともに祝いました。式典で、両宮所長が「ぱびるすで出会ったお友達を大切に、そしてまた困ったことがあったらいつでも声を掛けてください」と祝辞を述べ、卒園証書を一人ずつ手渡



しました。

卒園後は特別支援学校・特別支援学級に進学され、子どもたちに新たな出会いが待っています。子どもたちとの出会いを与えられ、成長とともにできた喜びを噛み締め、これからの更なる成長を願わずにはいられません。

法人幹部職員人事 報告

23年4月1日付け

鈴木 良成

つばさ静岡 療育部長

東日本大震災〜被災者の皆さまに謹んでお見舞い申し上げます〜

未曾有の大地震となった東日本大震災を受けて、社会福祉法人小羊学園として左記の救援・義援対応を実施・計画しています。

1 事業計画の延期 被災地の復興を優先すべく施設等整備に関わる国庫補助申請提出を延期

2 被災障がい者の受入れ、職員の派遣(意向調査を提出するが現時点要請なし) 支援センターわかぎ改築計画 支援センターわかぎ 10名+現地職員 受入れ 支援センターわかぎ 3名

3 義援金(各事業所単位で募金・送付) 職員派遣 県健康福祉部派遣要請調査 6名述べ30日間 県ボランティア協会を通じて

4 物資供給 法人全体で 718、835円

5 イベント等 県ボランティア協会へ毛布

職員懇親会の中止(経費を義援金に)・オリープの樹竣工式イベント縮小 創立記念祭アトラクション縮小・フェスタつばさ静岡アトラクション縮小

小羊学園 45 周年 創立感謝祭

日時 4月29日(金) 10時45分～15時

場所 三方原スクエア

内容 記念礼拝、模擬店、バザー
バザーの売上げは、東日本大震災の義援金にします。

どなた様もご自由にご参加下さい



小羊学園を支える会

2010年度寄付金報告

2・3月受付分 2,297,894円(51件)
累計 8,713,779円(535件)

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
静岡銀行細江支店 (普通) 043483
ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
三方原スクエア内 ☎053-414-1833

編集後記

東日本大震災は誰もの心を揺さぶり、生涯にわたって記憶に残るであろう大災害であった。被災された皆さまには謹んでお見舞いを申し上げます。

津波が街を瞬に飲み込み、その後の街全体が瓦礫の山と化した映像を目にした時、自然の前では人間はなんと無力なんだと痛感した。一方で復興に向け日本をはじめ世界の人々が東北の人々に熱いエールと支援の手を差し伸べている姿に人々の力強さを感じた。

過去においても、幾度に亘る逆境を乗り越え、立ち上がってきたのだから、きっと乗り越えられるはず。それが今命を与えられ生きている私たちの大きな使命なのだろう。ともにがんばろう！日本。(F)